

「江の島・鎌倉の旅」

虚子留守の鎌倉に来て春惜む 杉田久女

浪音の由比ヶ浜より初電車 高浜虚子



【江の島】 相模国鎌倉郡(現藤沢市)『吾妻鏡』に文覚が頼朝のために弁才天を勧請したとあり磯島・竹生島と共に日本三弁才天を祀る陸繋島。今では島の中を割り買ったエスカレーターが設られ、東側に埋め立て築いた湘南港では20年の東京五輪のヨット競技が開催予定です。江の島のの字ノの字はどちらも良いらしく、地名はの江ノ島電鉄はノを使っています。

【鎌倉】 鎌倉の名は『万葉集』にも「可麻久良」として登場、しかし本格的な都市として栄えたのは源頼朝が鎌倉幕府を置いてからです。鶴岡八幡宮を中心に道路・政庁・御家人の館などの街並みが作られ、大町・小町・二階堂など現に残る地名も幕府の記録書『吾妻鏡』にあります。明治に入ると横須賀線の開通と共に別荘地として栄え、小説家などが移り住み「鎌倉文士」の名が生まれました。四季それぞれに咲く花も美しく梅・桜・海棠・紫陽花など植えられた、花で有名な寺々も多く、修学旅行の先行の定番で小町通りには土産「鳩サブレ」を下げた学生で賑わいます。

天然記念物シリーズ <第2集>
-尾瀬(天然保護区域)-



「天然記念物」とは、学術上貴重で日本の自然を記念するものとして指定された動物植物、地質鉱物、そしてそれらに富む天然保護区域のことです。特に貴重なものは「特別天然記念物」として指定されます。第2集は尾瀬を題材としています。尾瀬は福島・栃木・群馬・新潟の4県にまたがり周りを燧ヶ岳・至仏山・皿伏山などが囲む盆地に尾瀬沼と尾瀬ヶ原があります。1956(昭和31)年に天然記念物、1960(昭和35)年に特別天然記念物に指定されました。

五味大太郎 1945(昭和20)年東京都・調布市生れ。桑沢デザイン研究所ID科卒業。工業デザイン、エレクトロニクスなどのデザイナーを経て、1973年に「みち」(福音館書店)で絵本作家としてデビュー。現在までに約450冊以上の絵本を手掛ける。絵本のほかエッセイも書いており、更に作家として主に子供向けの楽曲も手掛けています。サンケイ児童出版文化賞、路傍の石文字賞など数々の賞を受賞。海外での翻訳作品も多数あります。

1982年 福音館の幼児絵本 第1刷発行 2017年 福音館の幼児絵本 第153刷発行
聞かれています。子どもの大好きな絵本の絵本です。1977年に12歳とも年少版1発行
きんぎょがひびき金魚鉢から逃げ出した……。ペーペーをめぐると、にげたきんぎょが、どこかに

